



はあひろにくす

大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5-16-1

☎ 06-952-3131

一冊の本

図書館事務長 坂本 勇

私は、学生時代から森鷗外の小説が好きで、今も「舞姫」や「うたかたの記」などを読めば、たちまちその雅文に酔いしれてしまう。

ところで、鷗外の歴史小説の中に、私見として現代サラリーマンライフの機微に通じて参考になると思われるものがあるので、それを取り上げ私の「一冊の本」としたい。

それは、徳川幕藩体制も三代将軍家光の時代、武士は武功を立てる機会もなく、サラリーマン的生活をしていた。「阿部一族」はその頃の主君への殉死がかなわなかった武士の悲劇を描いた物語である。ここではこの作中に登場する人物二人について述べるが、それが内容の一端を理解して戴く糸口となれば幸いである。

(1)阿部弥一右衛門の死

当時の「殉死」とは崇高な事で、殉死者の一族の名誉と繁栄を約束するものであった。しかし、誰でもが勝手に殉死する事は許されなかった。弥一右衛門は、この「許しのない殉死」をしたが、機を逸したため全くの犬死となり、それが一族滅亡への導火線となる。

旧主から新主と代り、新主を取り巻く補佐役も旧主のそれとは違う。旧主の補佐役が新

主の補佐役に疎ぜられるのは世の習いである。

そこで、旧主は自分の死後、自分の補佐役であった家臣が困らないよう配慮すべきであるし、一方、一家の主たる者には、時期を失しない実行力が欲しいと思う。



(2)柄本又七郎の人づきあい

この人物が、主君への忠誠を失わずに朋友との義理を両立させたうえ武功も立て、しかも討死せずに生きて尊敬をうけている。

適確な情報分析と人情の割り切り、そして平素の鍛練と準備が備わったからこそ為し得た結果であろう。まさしく現代の伸び行くサラリーマンの原型を見る思いである。

については、今もサラリーマンの意識の底流にある日本伝統の精神的風土を理解するため、是非一読されることをお勧めする。この小説は短篇で2時間もあれば読了できるものと思う。

□シリーズ□ ～歴代館長が語る～

私の館長時代

(S42. 4. 1～46. 3. 31) 2期

常務理事 青井 忠正

(3代館長・工大・一般教育科・教授)

館長時代を語れとのことであるが、私と書物との出会いを織りませつつ、その当時を思い出すことに努めたい。

私と「ぱびるす」との出会いは、処女論文がオックスフォードのクラレンドン・プレスで印刷されたときであった。終戦後、日なお浅い頃だけに、英国からとどいた校正刷の、ゲラとはいえその紙の立派さ、活字の美しさに目をみはったものである。印刷インクの香りについて恩師から教わったのもそのときであった。これが「ぱびるす」というものか、との印象が懐しい。

この機関誌の「ぱびろにくす」という名前は云い得て妙である。私の館長時代は、世の中はアメリカの図書館の「機械化」に学べの頃であって、まだ「にくす」をつけ加えるには少し早い時代であった。小樽商大で電算処理を始めたらしいと聞いて早速訪れたが、電算でうち出した図書台帳を国の会計検査院が認めようとしないので弱っていると聞かされたことが、小樽の坂道からみた北海の海とともに忘れられない。そのような時代であった。

私の館長時代にいただいていた願望、そのいくつかが今の図書館につながっているならば幸いである。図書館の瀟洒(しょうしゃ)な建物を眺めるたびに思い出すのは、当時、図書館が名実ともに大学の象徴になってほしいとの思いにかられていたことである。当時の施設は前号の田先生の話の通りであり、また、それまでに私がかかわってきた学科増や大学院新設の際、蔵書の冊数だけが云々されることを淋しく思ってきたからであろう。最近、いつかの理事会の席上、寝屋川分館について、それが組織運営上どうであれ摂大図書館という独立した名称をつけるべきであると進言したのもその当時の思いがさせたのであろう。

大学図書館の生命の一つは学術雑誌のバック

ナンバーにあることはいうまでもない。そのことについて訓練を受けたのは大学院の院生の頃であった。館長当時は、バックナンバーが揃っているなど



いえた時代ではなかったし、それよりも、バックナンバーは常時利用しやすいようにしておくべきであるとの認識を高めるのに苦勞した。バックナンバーで思い出すことは、院生の頃、京大の物理教室の図書室で、うす暗い書架の谷間を背表紙の金文字のはのかな光を頼りに必要なボリュームを探した思い出、そして、それをタイプライターのキーを一本指でつつきながら写した思い出である。たまたま年号のないものがあったので、恩師の紹介状をもって阪大の当時の塩見研究所へ借りにいった。そのとき、阪大の大先生が私如き若僧に示してくれた温い心くばりを今でも忘れることはできない。それ以来、若い研究者が皮張りの椅子にパイプをくゆらせながら新着雑誌に見入ることを念願してきた。その後、学長時代になって今の図書館の中にそれに近い場をつくることができたのは幸いである。

当時、スミソニアンから関数表のシリーズが出版されると聞き、それを参考図書として揃えようと思ったことも、その後コンピューターの発達によって関数表の価値観がいささか変わりつつあるだけに、かえって懐しい思い出である。

当時ご協力戴いた館員の諸君は今は学園の要路にあってそれぞれ活躍しておられる。懐しいことである。

思い返せば良い時代であったといえる館長時代も、その任期の後半には、学園紛争によって私の身辺は急変していった。

図書館を知っていますか？

杉浦 佐知子

(I部・電子工学科・3年)

工大の図書館を知っていますか？ 立派で、「ああ、工大も大学なんだなあ」と感動します。しかし、見て感動したり、試験期間中カンヅメになる以外にも、図書館の使い道はあるようです。

まず、本を貸してくれます。目的の本が無い場合、「価格」、「著者」、「出版社」がわかれば勉強の本以外でもたいてい購入してくれます。読みたいが買えなかった本は遠慮なく図書館へ頼んでみたらどうですか。最近話題の本など。ただし最低1~2ヶ月は待つ覚悟が必要です。もう少し早くできないものでしょうか。

雑誌も案外多いのです。学術雑誌室、雑誌書庫が2階にあり、3階のメインカウンターに向って右側の小さな階段をうねうねと降りればいいのです。けど入る前にカウンターで名前を書かないとダメですよ。各室には名前の通り学術雑誌やバックナンバーがそろっています。

しかし、さがしてみるとアーチェリーの専

門誌などや各大学、企業の研究報告もあり、意外な事が研究されているのも発見できます。例えば防衛大学の研究報告など結構楽しめま



すよ。自分の専門分野の雑誌は見るのもイヤかもしれませんが、その他の雑誌をななめ読みすると、自分の常識の無さとか最近の進歩の早さに驚くことがあります。一つの記事でせいぜい5~6ページ、何だか半分わからなくてもなんとか読める量だし、雑誌の乱読は割に楽しいと思いますよ。

ところで、雑誌で出てくるのがコピーの問題ですが、縮小、拡大機能と、サイエンス2ページ分が入る大きさがコピーできるならば、もっと便利だと思うのですが…

図書館は勉強のためだけのものではありません。もっと楽しんで行ける所にするのは各自の工夫しだいです。

授業料のモトが取れる?!

森 義章

(I部・応用化学科・4年)

この大学に、お金をいくら払っているのかなあ……なんてよく考える。

いつも大学に不満ばかり言っているけれど、利用できるところは、利用しているかと言えば、そうとは言い切れないと思う。まるでマスプロ大学みたいだし、設備もいいとは言えないし、お世辞にも満足できる大学だって他の大学の友達に自慢もできやしない。でも、こんな大学だってまだまだ捨てたもんじゃないと思う。学生が大学で利用できるもので、一番気楽に利用でき、自分の為になるものといえば図書館がある。ここには、専門書は勿

論のこと、ベスト・セラーの文庫本をはじめ、新聞、雑誌だってある。一冊平均千円として年間四百冊程読めば、授業料のモトが取れることになる。



しかし、現実問題として、自分も含めて大部分の学生にも言える事だけど、図書館の使い方を誤っているような気がする。図書館に来るといえば、テスト前とか、レポート提出の前などにしか利用せず、そのくせ借りたい

本は、すでに借りられてしまっているという不満の声もよく聞かれる。確かに図書の絶対数も多いとは言えないが、そこは、日頃からの利用によって補うことができると思う。

専門書にしても、必要な部分だけを、ノートに写すとか、コピーするだけじゃなく、一応目を通すだけでも勉強になると思うし、英会話の勉強もテープなどで、出来ることも知って欲しい。

頭が疲れれば新聞、雑誌等を読んで頭を休めるのもいいと思うが、真面目に勉強している他の学生の迷惑になるような音とか、話し声は慎しむということも分っていて欲しい。

どのように利用するかは、本人の自由ではあるが、学生の特権として図書館を含めて、利用できるものは、ルールを守って最大限に利用して欲しいものである。

図書館活用の手引き ① JISについて

今回はJISについて説明します。

JIS（日本工業規格）とは、工業標準化法（昭和24年法律第185号）に基づき日本工業標準調査会で審議され政府により制定される国家規格のことです。

JISは、制定された日より少なくとも5年を経過するごとに規格が適正であるかどうかを審議します。その結果JISが現状に即応していることが「確認」されたときは、内容に変更なく存続し、即応していないときは、一部又は全面的に「改正」若しくは「廃止」することになっています。

JISは部門別（機械、建築、化学、他14部門）に分かれて部門記号がつけられています。部門記号はアルファベットで表わされています。その部門記号の後には4ケタの番号がついています。つまり規格のひとつひとつに番号が与えられているのです。

JISを探す場合にJIS番号がわかれば簡単に探しだすことができます。仮に

JIS番号でK-8341を探すことにします。まず、K-8341が何年に制定、改正されたものを調べます。このことを調べるためには「JIS総目録」を利用します。JIS総目録で調べるとK-8341は、K-8341-61と表示されています。この61が制定年もしくは改正年を表わしています。したがってK-8341は、1961年に改正されたままで現状に即応しているわけです。

当館ではJISは1975年以降制定や改正される度に差し替えがされています。しかし1975年以前に制定や改正がされ、その後制定や改正がされていないJISは部門別に年度ごとに製本されています。

K-8341の場合は、1961年に改正されたままなので、当然1961年Kの部門で探すこととなります。又、JIS番号がわからなくてもキーワードがわかれば探すこともできます。

詳細については、係員にお尋ねください。

編集後記

古き良き時代。良きにつけ悪きにつけ過去とは懐しいものである。青井館長時代の図書館、そして大学。今回は学生諸君にも寄稿していただいた。耳に痛いことも今後の図書

館を発展させる貴重な意見として嬉しく思う。過ぎて懐しむのが過去であれば、これからの学生々活は大いなる可能性を秘めた未来である。一瞬の時の流れも大切にしたい。寄稿していただいた皆様、ありがとうございました。